

認定特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel:+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658
編集・発行人 初鹿野 恵蘭
印刷協力 (株)日経印刷 (株)技術評論社 デザイン ARTY STUDIO

彩雲の南

Japan Yunnan Friendship Association

第34号

発行日 2010年(平成22年)8月15日

会報



雲南省をはじめ米国やフランス、香港の海外からも駆けつけていただいたご来賓の皆様。

国内では北海道から九州まで当初の定員を大幅に上回る総勢180余名が参加、5時間にも及ぶ“異例”的催しは終始盛り上がり、感動の輪が広がりました。



魯迅の詩による「絶望の虚妄なことは、まさに希望とと同じ」を引用し、厳しい現実を直視することで新たな希望が生まれてくることを明言。「知識があれば貧困から抜け出すための希望が生まれる」ことを訴えました。



就学支援制度「25の小さな夢基金」で学ぶ春蕾クラスの生徒もお祝いに駆けつけてくれました。来日した(左から)劉梅・李英・劉慧娟の3名の女子高生は、ハードなスケジュールの合間を縫って多くの初体験にチャレンジ。特に初めて見た海は生涯忘れない思い出となりました。日本の皆さんに感謝。(7月6日鎌倉・由比ヶ浜にて)

海外からも来賓が、参集する会員・ボランティア 会場包む「感謝と感動」、3女生徒が「華」添える

開会あいさつ



岩間辰志／当協会顧問、サッポロホールディングス株式会社名譽顧問。「7月1日付けで国税庁より『認定NPO法人』に認定されたことが報告されました」

御来賓あいさつ



許 沢友／中国大使館領事部 総領事。「当協会の努力と支援により既に22の小学校を建設、8000名を超える子どもたちが教育を受けられる機会を得ました」



狩野伸洋／財団法人一ツ橋綜合財團 常務理事。「2006年からお手伝いさせていただいた。困難な状況と子どもたちに対する熱い思いは『ブルードーザ惠蘭』にふさわしい」



徐 世英／香港「鏡報」名譽会長兼社長。空路フランスや香港から6名の代表がお祝いに来日。「鏡報」を通じての交流促進を提案されました。初鹿野理事長には記念品が贈られました。

感謝状贈呈式 ボランティア表彰



平田栄一／「小さな星新聞プロジェクト」担当(100名を越すボランティアを代表して授与)。「協会設立以来、志をもった方に多くの方々の知恵と時間をお借りしてきました」

感謝状贈呈式 個人表彰



三木秀隆／メイネットインターナショナル株式会社代表取締役。「多大なる小学校建設資金の提供を始め5名の就学支援を行なうなど、献身的な教育支援活動に対して」

感謝状贈呈式 会員表彰



近藤鈴一／当協会名古屋支部長。「10年間にわたる多大な時間や資金の提供のみならず、現地での活動に同行していただきました」



國武豊喜／九州大学名譽教授。「老村小学校建設に支援していただき、献身的な活動に対して」。当日は出席できず、樋口顧問が代理で表彰を受けました。



小澤文穂／当協会顧問。「会員加入のご協力を始めとする協会に対する様々な支援に対して」



吉光／当協会顧問、日本留学生新聞編集長。「8年もの長い間、現地視察の同行や省・市政府との連絡を担当していただきました」

感謝状贈呈式 団体・企業表彰



片岡巖／株式会社技術評論社代表取締役。「8年前より協会の事務所スペースを提供。協会顧問を務めるなど、心両面からの支援に対し。また、社員一同の皆様のご協力に感謝して」



土田淳志／株式会社ワッツアップ。「協会の10年間の活動を収録しましたDVDの製作協力に対して」



中村栄一／昭和情報プロセス株式会社代表取締役。「現在制作を進めています協会10周年誌制作のご協力に対して」



高山信彦／株式会社完璧堂社長。「教育支援活動や就学支援制度『25の小さな夢基金』への支援に対して」



松葉慎之／株式会社アイアーズ・ブレイク取締役。「第18校目『南勤小学校』建設に際し多大な資金をご提供いただきました」

感謝状贈呈

狩野伸洋常務理事／財団法人 一ツ橋綜合財團。「4年前から協会の柱事業である教育支援活動に毎年、多大なご支援をいただいていることに対して」

株式会社日経印刷／都合により出席できず。「協会の広報誌『彩雲の南』を始め様々な印刷のご協力に対して」

株式会社アネムホールディングス／都合により出席できず、樋口顧問に代理授与。『第18校目『清平日中友好小学校』の建設に際し多大な資金をご提供いただきました』

特別感謝状贈呈



丘ヤス／米国アルバート・アインシュタイン医科大学名譽教授。「昨年、『夢は叶う』をテーマに現地の子どもたちに体験を通じて公演をしていただき、反響を呼びました。この後、丘ヤス先生と新井先生からメッセージを頂きました」



新井淳一／日本経済研究センター会長、前日本経済新聞社副社長。「今年5月に同様のテーマでご講演をいただきました。『夢を持ち、努力を重ねることこそが未来の扉を開くきっかけとなる』との気高い精神に触れた子どもたちに大きな反響を呼びました」

■ 3生徒による歌舞踏



アトラクションでは、多忙な学校生活の合間に織りて一生懸命練習した1歳の「松明祭りの踊り」やラフ族の歌「快楽ラフ」、「チベット風の踊り」などの伝統芸能が披露されました。躍動感あふれる歌と踊りに会場は和やかな雰囲気になりました。



こちらは日本の伝統芸能「八王子雷神太鼓」。迫力満点の勇壮なパフォーマンスで会場はどよめき、女生徒たちも驚いていました。

■ 「昂」の大合唱



5月に開幕した上海万博の開会式で谷村新司氏が歌い大喝采を浴びた名曲「昂」。初鹿野理事長の提案により全員での大合唱が実現しました。

「夢基金」3生徒、日本のサポーターと初対面

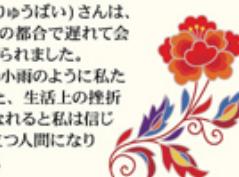
李さん、大崎さんに「お祖父さんと呼ばせて」

2年前からスタートした、高校進学を希望する少数民族の就学を支援する制度「25の小さな夢基金」で昆明の女子高校「春蕾クラス」で学ぶ1年生3名の女子高校生が初来日し、サポーターと感動の対面をしました。

多忙な学校生活の合い間に縫って練習した歌と踊りを披露、万雷の拍手を浴びました。



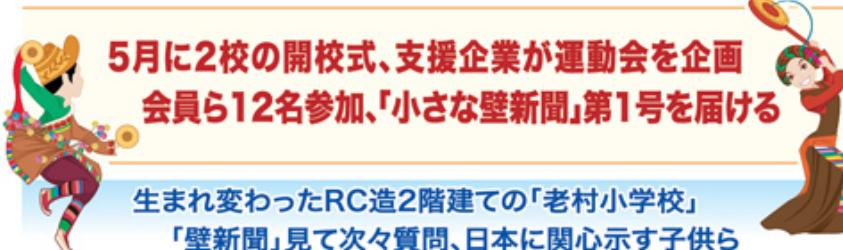
李英（りえい）さんはブータンのラフ族出身。「暖かい心は勉強や生活上の困難に立ち向かい、前に進むことを教えてくれました。私も助けを必要とする人を助けて行きたい」と意を。このため北高道から駆けつけたサポーターの大崎功雄さんは、「手紙の交換で4月にお祖父さんが亡くなつたことを知りました。『お祖父さんと呼んでいいですか』と尋ねられ、「大いに呼んでください」と返信した交流のエピソードを披露。「李英さんの写真はいつも財布に忍ばせていますからね」と握手を交わしました。



仕事の都合でご欠席の北九州のサポーター・佐々木広幸氏は「努力は人生の大きな力になるものです。少しでもお役に立てることを大変うれしく思っています」とメッセージを送ってくださいました。これに対し怒江ヌー族出身の劉慧娟（りゅうわいせん）さんは「雲南でお会いできる日を楽しみにしています」と応えました。そして、「長い干ばつの後の恵みの雨のように、私たちが一番苦しんでいるときに未来への希望を引き起こしてくれました。将来、この恩を大切にし社会に返していきたい」と明るく語りました。



昭通市永善県イ族出身の劉梅（りゅうわいばい）さんは、サポーターの西村広幸氏が仕事の都合で遅れて会場入りすることを司会者から告げられました。劉さんは「皆様からの愛は、春の小雨のように私たちの成長を潤してくれました。また、生活上の挫折や困難と闘いなければ、強い人になれるとは私は信じています。そして社会や国に役立つ人間になりたい」と力強く希望を述べました。



生まれ変わったRC造2階建ての「老村小学校」 「壁新聞」見て次々質問、日本に関心示す子供ら

5月24日、壁新聞第1号を雲南省毎沙郷の「老村小学校」に届けてきました。老村小学校は協会が支援する第21校目で、昆明市街から北へ車で4、5時間程行った赤土の高原地帯にある小さな学校です。

昨年春、視察に訪れた際には木造校舎の屋根は被打ち、教室の壁は剥がれ落ちて隙間が見える程の状態で、早急に建て替えが望まれました。それから1年、校舎は鉄筋コンクリート(RC)造の2階建てに生まれ変わり、同時に「シャワー室」も備えたトイレ棟も完成。5月23日に開校式を迎えたところです。新しい校舎が完成したばかりの老村小学校の子供たちは大感激の様子でした。

壁新聞は新校舎の1階と2階を結ぶ階段の踊り場の壁面に展示してもらいました。階段の踊り場ということで、全学年の子どもがいっぺんに見ることはできないので、まずは2年生の子どもたちに見てもらい、残りの生徒は授業の合間に見学してもらうことにしました。先生に引率されて踊り場にやってきた2年生の子どもたち、初めはなんのことかわからなかったよう壁新聞を遠目に眺めていたのですが、壁新聞の主旨やそこに描かれていたこの説明を聞いた途端に、「目の色が変わる」とはまさにこのことを言うのでしょうか。「食い入るように」紙面を覗き込み、「小菅の子どもたちはどんな遊びをしているの?」「どんな勉

強をしているの?」「どんな食べ物をたべているの?」と次々に質問が飛び出してきて、もっと中味を見たいとおなじみの大盛況でした。はるか彼方の日本という国の、山梨県の小菅小学校のみなさんからのメッセージを目の当たりにして食い入るように壁新聞を見ていました。

老村小学校の子供たちにとっては、多分、「外国」と接した初めての機会だったのではないかでしょうか。老村小学校の子どもたちの様子を見ていて、国や生活習慣は違っていても、子どもたちの興味や関心は同じんだと感じました。

■リポーター：平田栄一（協会会員）



山梨県の小菅小学校のみなさんからのメッセージを食い入るように見る子供達。「どんな勉強をしているの?」「どんな食べ物をたべているの?」質問はつきませんでした。



200名の生徒が8つのチームに分かれた大運動会。玉入れや綱引きに子供達は大はしゃぎでした。



すっかり「友達」になった子供たちと写真におさまる堀井さん。それだけに別れが辛かったようです。

「両勤小学校」、鼓笛隊と民族衣装姿が出迎え 運動会は大成功！交流深まり別れ際には涙が

期待と不安でいっぱいだった第22校目の「両勤小学校」の開校式。そこで私達を待っていたのは、ズラリと道に並んだ鼓笛隊の姿と民族衣装を身にまとった大人達。それに五色の旗がなく3階建ての立派な小学校でした。鳴り響く太鼓の音と歓声に包まれながら、私達は小学校へと続く坂道をゆっくり上って行きました。「ニーハオ！」「こんにちは！」この光景を見ただけで感動のボルテージは最高潮に運びました。

さっそく歓迎の式典が始まりました。州長の挨拶に続き初鹿野理事長、弊社代表の挨拶、一人の民族衣装をまとった女の子が挨拶をしてくれました。

「私達はこんなにも明るくきれいな学校で学べて本当に幸せです。皆さんからいただいたこの学校で私達は思い切り学び、遊べます。皆さんのことはずつと忘れません」、女の子の素直で飾り気のない言葉は、私達の胸を熱

くしました。そして式典は躍動感あふれる子ども達のダンスに大人達の民族舞踊へと続きました。

続いて私たちが準備を進めてきた大運動会です。200名の生徒が8つのチームに分かれ、赤、青、黄などチームカラーのはちまきをして玉入れや綱引きを行いました。スタートの笛が鳴る前に始めたり、終了の笛が鳴っても気付かなかつたりと子ども達はもう大はしゃぎでした。

そして興奮冷めやらぬ運動会に引き続いて、シャボン玉やサッカーボール、縄跳びなどで遊び、最後はドラえもん音頭を踊りました。後半からは自然と大人達も加わり、小学校の校庭には大きな輪が出来、名残を惜しむように何度も踊りました。

そしていよいよ別れの時がやってきました。抱き合って涙する者、家に遊びに来て！

と手を引っ張られる者、ついさっきまで楽しく

笑顔いっぱいだっただけに、より別れが名残惜しかったのかもしれません。短い間に結ばれた絆を感じつつ、思い出の詰まった小学校を後にしました。

出会う前の緊張した面持ち、盛大な歓迎と交流から生まれた晴れ晴れた笑顔、そして別れるときのさみしい涙。直接、子ども達と触れ合ったから得られた感動でした。

1年間にわたり両勤小学校の建設に尽力していただいた認定NPO法人日本・雲南聯誼協会の皆さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。感動の一日を本当にありがとうございました。

■リポーター：(株)ディアーズ・ブレイン 経営管理部 総務グループ 堀井健一

(ディアーズ・ブレインの社会貢献活動の責任者として日本・雲南聯誼協会と協力して両勤小学校の開校式イベントや渡航スケジュールなどを企画、実行する)

「春蓄」卒業式、第二期生42人が旅立つ サポーター2名が出席、「大空に羽ばたいて」

9月以降順次サポーターの皆さんにご報告して参ります。



卒業生全員と記念写真に収まるサポーターの森さん（中央の黒ジャケット姿）と大泉さん（左隣でグレーのスツ姿）



民族衣装に身をまとった卒業生たちが見ているのは、学校行事等を定期的に掲載する「新蓄」誌。最後の「見おさめ」にちょっぴり淋しま…

「小さな壁新聞」、遣唐使の足跡たどり雲南へ 協会・帆船「あこがれ」の合同企画が実現

昨年9月に始まった「小さな壁新聞プロジェクト」に進展がありました。今年5月、日本版創刊号となる「山梨県小菅村立小菅小学校」の壁新聞が、翌6月に雲南版創刊号「支援第21校目中友好尋甸縣老村鶴心小学校」の壁新聞が完成したのです。

日雲の小学生と、28名のボランティアが情熱を費やした壁新聞には、可



▲大阪市の帆船「あこがれ」は国内で唯一の市民向けセイルトレーニング船で、小学4年生から乗船が可能。

愛らしい絵と、まだちよびりよそ行きの、けれど夢にあふれた記事がつづられています。

協会設立10周年記念式典で初披露された壁新聞が、さっそく内外で反響を呼びました。そのひとつとして、7月の海の日にはなんと、日本版壁新聞が大阪上海青少年交流事業の一環として中国に渡る、大阪市の帆船「あこがれ」に乗船!関西は折りしも、奈良平城京遷都1300年祭の真っただ中、日中友好のため航海に挑む「あこがれ」は、いわば現代の遣唐使船です。

小さな壁新聞のことを見た帆船ボランティアより、「子供たちの夢を「あこがれ」に乗せてみませんか?」と提案があったのが5月下旬。その後、「せっかくなら遣唐使の足跡をたどるマラソンをしよう」と新たな提案が



◀現代の遣唐使として、奈良から大阪を結ぶ古道「暗峠」をマラソンで走破した3人と乗船員たち。この後8日間かけて無事、上海へ雲南への旅が続く（7月19日、帆船をパックに届けられる「壁新聞」の前で記念撮影）

2010年度第1回役員会開催 新たなる10年の飛躍に向け一丸



5月20日と6月18日、初鹿野理事長により役員会が召集され、東京本部事務局で開催されました。10周年記念式典を目前に控えた役員会とあって、充実した話し合いが持たされました。

今年度第1回目となる5月20日の役員会では、協会のメイン事業である「50の小学校プロジェクト」第21-22校の完成や、メモリアルイヤーに新たに始動した「小さな壁新聞プロジェクト」第1号の完成報告が行われました。続く第2回役員会では、間近にせまった定時総会とそれに続く10周年記念式典のための最終的な話し合いがもたれるとともに、初鹿野理事長より国税庁から「認定NPO法人」の認定の内定がおりた嬉しい報告がありました。10周年の皆さんのご支援・ご協力に改めて感謝するとともに、新たなる10年に向けた飛躍の年とするべく、役員・事務局一丸となって今年度も頑張って行きます！

【第1回役員会出席者】（敬称略・順不同）

初鹿野恵蘭理事長、杉谷隆志専務理事、遠藤功理事、中村有里子理事、大鷲修平理事、唐澤英安理事、初鹿野薰理事、東郷浩顧問、片岡巖顧問、佃純誠監事、鈴木暉（会員／10周年記念式典企画部長／小さな壁新聞プロジェクトチーム）、事務局（大塚美佐子、山田美葉）

【第2回役員会出席者】（敬称略・順不同）

初鹿野恵蘭理事長、遠藤功理事、北原茂実理事、中村有里子理事、桂正徳理事、大鷲修平理事、村松健児監事、佃純誠監事、片岡巖顧問、東郷浩顧問、根岸恒次顧問、事務局（大塚美佐子、山田美葉）、大越泰治、平田栄一、高山千代美

第10回定時総会6議案審議、了承 「小さな壁新聞」が帆船に乗り中国へ



6月26日(日)、八王子学園都市センターにて第10回定時総会が開催され、役員や会員、東京本部合わせて18名が出席しました。

当日第1号から第6号まで6つの議案が協会の担当理事・担当監事から順次報告・提案され、すべて賛成で審議され承認されました。

また2010年7月1日付けで「認定NPO法人」に認定される通知が国税庁より届き、認定が内定したことが報告されました。それに伴い、イベントでの物品販売などの営利活動を今後はしないという方針が予算案などとも関連し説明されました。これに対し参加者からは今後の資金の集め方を考えいくことも必要であろうとのご意見も出されました。

議題終了後にはボランティアの平田栄一さんが、ボランティア企画プロジェクト「小さな壁新聞」や7月中旬に日本側で制作した「小さな壁新聞」の第1号が大阪の帆船あこがれに乗って中国に運ばれることなどについても説明、ご報告してくださいました。「小さな壁新聞」は大いに会場を沸かせました。

いよいよ間近に迫りました7月4日開催の「協会設立10周年記念式典」に向け、役員を始め会員、ボランティアの皆さん、協会本部一致協力して成功させる事を重ねて誓いました。

協会ニュース

2010年7月1日、協会が 「認定NPO法人」に認定される 寄附金等は税控除の対象に、 質の高い活動目指す



2010年7月1日、日本・雲南聯誼協会は国税庁より「認定NPO法人」と認定されました。認定期間は平成22年7月1日から5年間で、各企業や団体、個人から協会にお寄せ頂いた寄附金や支援金、賛助会費等は有効な社会貢献の一助と見なされ、広く寄附金控除の対象となります。

現在、全国に約39,000のNPO法人がありますが、認定を得ているのは160にも及びません。協会創立10周年の節目の年に認定を受けることができましたのも、ひとえに様々な形でご支援くださる皆さまのおかげと改めてお礼申し上げます。この10年間で学びの機会を得られた子どもの数は優に8,000名を超みました。さらに質の高い活動を目指し、理事長はじめ役員・理事・職員一同誠心誠意努力して参る所存です。

※ 税法上の寄附金控除の概要は下記の通りです。

◆個人によるご寄附の場合…所得金額の40%を上限として寄附金の額から5千円を差し引いた額について所得税が課税されません。この措置は確定申告で行います。

◆法人によるご寄附の場合…損金算入限度額とは別に、同額の損金算入限度額が設けられているため、通常で2倍の寄附金が損金算入できることになります。

◆相続財産からのご寄附の場合…ご寄附頂きました相続財産は、相続税の課税対象から除かれます。

新旧駐中国大使の歓送迎会が開催 初の民間出身の丹羽氏、31日に着任



7月26日、初鹿野理事長がホテルニューオータニで開催された新旧駐中国大使の歓送迎会に招かれ、出席しました。当日は岡田外務大臣や程永華駐日中国大使をはじめとする750人のゲストが、宮本旧大使の労をねぎらうとともに、丹羽宇一郎新大使の門出を祝福しました。戦後初の民間出身の中国大使となる丹羽氏は、31日に北京に着任。商社の元トップだっただけに、経済を始めとする日中関係の新たな関係構築に期待する声は大きい。

連載 | 鏡頭裏的世界 -レンズの中の世界-

【No.4】箱根神社にて

初めて「神社」を訪れた春養生徒たち。鬱蒼と生い茂る大木の森に驚いていました。さてさて、神妙な顔付きでなをお祈りしたのでしょうか。（平田栄一2010年7月6日箱根神社）

皆様のご投稿をお待ちしております！

【データ】 yunnan@jyfa.org

【郵送】〒162-0846 新宿区市谷左内町 21-13 1階
日本雲南聯誼協会「会報投稿コーナー」係
※原則としてお写真のご返送は致しかねます。

イベント情報

8月28日（土）

10周年記念杯! 第6回チャリティーゴルフコンペ

場所：大月カントリークラブ主催：日本雲南聯誼協会

9月17日（金）～22日（水）

「100万回の手洗いプロジェクト」JICA視察に同行

場所：雲南省怒江州福貢県

10月2日（土）3日（日）

グローバルフェスティバルJAPAN2010 場所：日比谷公園

主催：グローバルフェスティバルJAPAN2010実行委員会

10月25日（月）～30日（土）

支援校児童巡回検診（仮称） 場所：雲南省

主催：日本雲南聯誼協会

11月20日（土）22日（日） 第31回八王子いちょう祭り

場所：八王子市甲州街道（国道20号）追分交差点～小仏跨所跡

主催：八王子いちょう祭り祭典委員会

11月 「100万回の手洗いプロジェクト」第5回現地派遣活動

場所：雲南省紅河州建水県、怒江州福貢県

12月18日（土） 第10回チャリティー忘年会

場所：恵比寿BEER STATION

主催：日本雲南聯誼協会

編集後記

長いようで短い10年、その逆もありうかと、協会設立以前、当時4歳の子を背負い教育支援のため日本と雲南を往復した苦しい日々を思い、暫し感慨にふける初鹿野理事長の表情が印象的でした。記念式典当日「大学生ですか、大きくなりましたね」と声をかけると、はにかむ笑顔が返ってきました。理事長が一番出席してほしい「人」ではなかったでしょうか。これから先、10年を幾度も重ねることを祈り、改めてご支援に感謝申し上げます。



ご協力ください

協会の活動は皆様のご厚意によって支えられております。ご入会・ボランティア登録は随時受付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。また、カンパは下記口座にて承っております。1人でも多くの子どもたちに夢と希望を届けるため、皆様の暖かいご支援を心よりお待ちしております。

トクテイヒエリカツドウハウジンニッポンウンナンレンギヨウカイ
特定非営利活動法人日本雲南聯誼協会
三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店 普通口座 1300380
ゆうちょ銀行 00100-8-610935